

2019 年度ユネスコスクール年次活動調査

このユネスコスクール活動調査は、今後のユネスコスクール活動の一層の推進に向けて、ユネスコスクールの実情を把握するとともに、ユネスコスクールの活動を支援するために、現場の皆様の声を政策に反映すること、また現場の皆様が活動の中で活用できる情報を集約することを目的として実施されます。調査結果は、ユネスコスクール事務局（ACCU）にて直接回収し、個別の学校名がでないような形で分析・公表しますので、忌憚のないご意見をお聞かせください。

2020年1月12日（日）までにご回答頂きますよう、ご協力お願い申し上げます。

1. 今年度の活動についての調査

① ユネスコスクールの位置付けについて

質問1 ユネスコスクール担当者の設置を以下から選択してください。

- 担当者を設置している
- 担当者を設置していない（質問5へ）

質問2 ユネスコスクール担当者の役職を以下から選択してください。

- 校長（園長）
- 副校長（副園長）
- 教頭
- 主幹教諭
- 指導教諭
- 教諭
- その他

--

質問3 ユネスコスクール担当者の年齢を以下から選択してください。

- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代以上

質問4 学校全体で組織的かつ継続的にユネスコスクール／ESDの活動に取り組むための工夫を以下から選択してください。

- 学校経営方針にユネスコスクールの活動に取り組むことが示されている。
- 学校経営方針に示されていないが、ユネスコスクール活動推進のための仕組みが構築されている。

- 学内で推進組織が決められている。
- 学内で担当者が決められている。
- 特になし
- その他

質問 5 学校の幼児・児童・生徒数を以下から選択してください。

- 1～500 名
- 501～900 名
- 901～1,200 名
- 1,201 名～

質問 6 学校の教員数を以下から選択してください。

- 1～20 名
- 21～50 名
- 51～100 名
- 101 名～

質問 7 校内で国内や海外のウェブサイトアクセスしユネスコスクールに関する情報を気軽に得ることができますか。

- はい
- いいえ

質問 8 外国語で情報収集や発信ができたり、交流したりする環境が整っていますか（複数選択可能）。

- 英語でのやり取り可能な環境が整っている
- 英語以外の外国語でのやり取り可能な環境が整っている
- そのような環境は整っていない

質問 9 今年度の活動について、ユネスコスクール活動に係る費用をどのように負担しましたか（複数回答可）。

- 自校の日常的な経費として
- 企業・団体から支給された補助金など（質問 10 へ）
- 教育委員会から支給された補助金など
- 文部科学省から支給された補助金など
- その他（質問 10 へ）
- 特別な経費はかかっていない

質問 10 質問 11 で「企業・団体から支給された補助金」「その他」を選択した場合、具体的な団体名をご記入ください。

② 国内外の学校間交流について

ユネスコスクール加盟校の活動の活発化及び質の向上のために、国内外との学校間交流が推奨されています。

質問 1 国内外の学校と交流をしましたか（ユネスコスクールに限定しません）（複数選択可）。

- 国内の学校と交流した
- 海外の学校と交流した
- 交流しなかった（質問 15 へ）

質問 2 学校間交流を実施するようになったきっかけは何ですか（複数選択可）。

- ユネスコスクールに認定されたため
- 姉妹校として提携しているため
- 授業内で交流が必要になったため
- ACCU の教職員派遣／招へいプログラムに参加したため
- その他

質問 3 交流校の中にユネスコスクールはありましたか（複数選択可）。

- 国内のユネスコスクールと交流した（質問 5 へ）
- 海外のユネスコスクールと交流した（質問 11 へ）
- ユネスコスクールとは交流しなかった（質問 15 へ）

質問 4 国内のユネスコスクールと実施した交流活動を以下から選択してください（複数選択可）。

- 教員の往来（公開授業や視察など）
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーに出席した際の交流
- 手紙、プレゼント、カード、絵等での交流
- オンライン（スカイプ、チャット、電子メール等）での交流
- 協働プロジェクト／活動の実施
- その他

質問 5 国内のユネスコスクールとの交流活動において、テーマとした内容を以下から選択してください（複数選択可）。

（参考）SDGs の 17 の目標

- 貧困
- 飢餓
- 健康・福祉
- 教育
- ジェンダー
- 水・衛生
- エネルギー
- 経済成長と雇用
- インフラ・産業化、イノベーション
- 不平等
- 持続可能なまちづくり
- 持続可能な生産と消費
- 気候変動
- 海洋資源
- 陸上資源
- 平和
- パートナースhip
- その他

質問 6 国内のユネスコスクールと交流した成果について、簡潔にご記入ください。

質問 7 国内のユネスコスクールと交流した際の課題について、簡潔にご記入ください。

質問 8 海外のユネスコスクールと実施した交流活動を以下から選択してください（複数選択可）。

- 教員の往来（公開授業や視察など）
- 生徒・児童の往来
- 会議やセミナーに出席した際の交流
- 手紙、プレゼント、カード、絵等での交流
- オンライン（スカイプ、チャット、電子メール等）での交流
- 協働プロジェクト／活動の実施
- その他

質問 9 海外のユネスコスクールとの交流活動において、テーマとした内容を以下から選択してください（複数選択可）。

（参考）SDGs の 17 の目標

- 貧困
- 飢餓
- 健康・福祉
- 教育
- ジェンダー
- 水・衛生
- エネルギー
- 経済成長と雇用
- インフラ・産業化、イノベーション
- 不平等
- 持続可能なまちづくり
- 持続可能な生産と消費
- 気候変動
- 海洋資源
- 陸上資源
- 平和
- パートナリーシップ
- その他

質問 10 海外のユネスコスクールと交流した場合、国または地域名を以下から選択してください（複数選択可）

- 韓国
- 中国
- アメリカ合衆国
- その他（具体的な国・地域名を記入してください）

質問 11 海外のユネスコスクールと交流した成果について、簡潔にご記入ください。

質問 12 海外のユネスコスクールと交流した際の課題について、簡潔にご記入ください。

質問 13 海外交流に係る情報をどこで手に入れましたか。

質問 14 海外交流にあたって支援を受けた組織（企業）・団体があればご記入ください。

質問 15 交流しなかった理由について以下より選択してください（複数選択可）。

- 交流のための費用を捻出するのが難しいから
- 交流のための人員確保が難しいから
- 交流校を見つけるための支援がないから
- 交流するための方法が思いつかないから
- 交流するメリットが感じられないから
- その他

③ 学校以外の団体との協働について

質問 1 社会教育機関、NPO 等とユネスコスクールの活動を通して連携しましたか。以下から選択してください（複数選択可）。

- PTA
- 地域の協力者
- 公民館
- 学校支援地域本部
- 教育委員会・首長部局
- 野外教育施設
- 図書館
- 博物館、科学館
- 動物園・植物園・水族館
- 地域のユネスコ協会
- 大学等高等教育機関
- 企業
- NPO・NGO 団体
- その他

- 連携しなかった（質問 6 へ）

質問 2 質問 1 の団体とどのような連携をしましたか（複数選択可）。

- 講師を招へいし、児童・生徒の活動の指導・支援をもらった
- 講師を招へいし、教員向けの研修会を実施した
- 教材を提供してもらった
- 共同で授業開発をおこなった
- 施設に訪問した
- その他

質問 3 外部団体と交流することになったきっかけについて、簡潔にご記入ください。

質問 4 外部団体と交流した成果について、簡潔にご記入ください。

質問 5 外部団体と交流をした際の課題について、簡潔にご記入ください。

質問 6 今年度、校外における ESD・ユネスコ活動に関する研修に参加しましたか。

- はい
- いいえ (④へ)

質問 7 ESD・ユネスコ活動に関する研修会を主催していた団体名をご記入してください。

質問 8 ESD・ユネスコ活動に関する研修会名をご記入ください。

④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信

質問 1 ユネスコスクール（日本国内の場合、ESD 推進拠点）として、実践や研究に取り組み、その成果を積極的に発信することを通じて、ESD の理念の普及に努めましたか。

- 努めた（質問 2 へ）
- 努めなかった（2. へ）

質問 2 努めた場合は、どのような手段を通じて成果を発信しましたか？（複数選択可）

- 報告会や研修会の開催

- 学校の研究紀要等による他校の教員や教育委員会等への発信
- 学校便り等による保護者や地域への発信
- ユネスコスクール全国大会等他の機関主催の研修会等で実践事例発表
- 学校の公式ウェブサイト
- ユネスコスクール公式ウェブサイト
- その他

2. ユネスコスクールとしての活動の成果

① ESD と SDGs の関係に関する認知度

質問 1 「ESD:SDGs 達成に向けて (ESD for 2030)」という、2020 年から始まる ESD に関する新たな枠組みが国連及びユネスコで採択されることについて

- 知っている
- 知らない

質問 2 ESD は、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 4 (教育) のターゲット 4.7 に位置付けられていることについて

- 知っている
- 知らない

質問 3 新学習指導要領 (小中高等学校) 又は新幼稚園教育要領の前文で、教育の目標として児童・生徒が「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と示されていることについて

- 知っている
- 知らない

質問 4 ESD は、「持続可能な社会の創り手」の育成を通じて、17 ある SDGs の全てのゴールの達成に寄与する教育であるとの位置付けについて

- 知っている
- 知らない

② ユネスコスクールとしての活動による変化

ユネスコスクール加盟校 (ESD 推進拠点) として感じる今年度を通して感じられる変化についてご回答ください。

質問 1 貴校の幼児・児童・生徒にみられる変化について

(1) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、育みたい資質・能力を明確にしていますか。

- している

※その資質・能力が分かる既存の資料を webmaster@accu.or.jp までご送付ください。また、その資料に示された資質・能力のうち、ユネスコスクールとしての教育活動を通じて特に幼児・児童・生徒に身についたと感じられるものがあれば、記述欄に記載してください。

していない

(2) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて身についた資質・能力を捉えるための評価の工夫をしていますか。

している

※その評価の工夫や評価結果がわかる既存の資料を webmaster@accu.or.jp までご送付ください。

していない

(3) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、新学習指導要領にて次に示す「資質・能力の三つの柱」のうちどの事項において、最も幼児・児童・生徒の変化が見られましたか。

知識・技能

思考力・判断力・表現力

学びに向かう力・人間性

(4) ユネスコスクールとしての教育活動を通じて、次に示す持続可能な社会づくりを構成する6つの視点のうちどの視点が、最も幼児・児童・生徒に身についたと感じますか。

多様性（いろいろある）

相互性（かかわりあっている）

有限性（限りがある）

公平性（一人ひとり大切に作る）

連携性（力を合わせる）

責任性（責任を持つ）

(

質問2 質問1でお答えいただいたような幼児・児童・生徒の変化を促すきっかけとなった教育活動がありましたらご記入ください。

質問3 ユネスコスクールとしての教育活動の題材として、SDGsの17の目標のうち特にどの目標に関連した内容を取り上げましたか。特に関連する三つの目標についてお答えください。

(複数選択可)

目標1（貧困）貧困をなくそう

目標2（飢餓）飢餓をゼロに

目標3（保健）すべての人に健康と福祉を

目標4（教育）質の高い教育をみんなに

- 目標 5（ジェンダー）ジェンダー平等を実現しよう
- 目標 6（水・衛生）安全な水とトイレを世界中に
- 目標 7（エネルギー）エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 目標 8（経済成長と雇用）働きがいも経済成長も
- 目標 9（インフラ・産業化、イノベーション）産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標 10（不平等）人と国の不平等をなくそう
- 目標 11（持続可能な都市）住み続けられる街づくりを
- 目標 12（持続可能な生産と消費）つくる責任つかう責任
- 目標 13（気候変動）気候変動に具体的な対策を
- 目標 14（海洋資源）海の豊かさを守ろう
- 目標 15（陸上資源）陸の豊かさを守ろう
- 目標 16（平和）平和と公正をすべての人に
- 目標 17（実施手法）パートナーシップで目標を達成しよう

質問 4 貴校の教員の変化について（複数回答可）

（参考）平成 30 年度ユネスコスクール年次活動調査結果

(1) カリキュラム・教授法で変化があったと評価できることについて以下より選択してください（複数選択可）。

- 持続可能性に関する価値観をもとに授業等を見直す機会をもつようになった
- 教科領域を超えて横断的に取り組むなどカリキュラムマネジメントを工夫するようになった
- 児童・生徒自らが問題意識をもち課題を発見できるようなカリキュラムを開発するようになった
- 授業の教材や資料、発問を工夫するようになった
- 国内外のユネスコスクールとの交流により指導技術の向上を図ろうとする機運が高まった
- 国内外のユネスコスクールと交流の機会をつくり、ユネスコスクールネットワークの特性を活かした学習を取り入れるようになった
- その他（記述欄へ）

(2) 学校運営で変化があったと評価できることについて以下より選択してください（複数選択可）。

- 学校全体で ESD に取り組む機運が高まった
- 教員間で持続可能性に関する価値観を話し合う場をもつことができるようになった
- あらゆる教員が自主的にチームを組み活動を展開するようになった
- ユネスコスクールの活動を継続的に実施できるような仕組みづくりをするようになった
- ESD やそのほかのユネスコの理念と関係する研修会に積極的に参加するようになった
- 教員が積極的に地域の方々と交流し、双方の信頼関係が深まった
- 保護者に積極的に学校のユネスコスクールに関わる活動を発信するようになった
- その他（記述欄へ）

質問 5 質問 4 のような変化を促すきっかけとなった活動がありましたらご記入ください。

--

3. ユネスコスクール支援の利用状況

質問 1 ユネスコスクール事務局からどのような支援を受けましたか。

- ユネスコスクール加盟時の申請支援
- ユネスコスクール間交流のためのマッチング
- 有識者の紹介及び派遣
- 事務局職員による出前講習
- ユネスコスクール事務局（公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU））開催の研修会及び事業への参加を通じた支援
- 外部の研修会、教材、その他ユネスコスクールに関わる有益な情報の紹介
- 特になし（質問 2 へ）
- その他

--

質問 2 質問 1 で「特になし」と回答した場合、どのような支援を求めますか。

--

質問 3 ユネスコスクール公式ウェブサイトを利用していますか。

- 利用した
- 利用しなかった（質問 7 へ）

質問 4 ユネスコスクール公式ウェブサイトでどのような機能を使いましたか。

- ユネスコスクール加盟申請
- ユネスコスクール加盟後の個別相談
- 他校の学校情報検索
- 教材ルームでの教材検索
- みんなの掲示板やイベントのお知らせ、地域情報ルームでの研修会、ワークショップなどのイベントに関する情報収集
- みんなの掲示板や地域情報ルームでの研修会、ワークショップなどのイベントの情報発信
- ASPUnivNet の公式ウェブサイトへのアクセス
- ESD について
- ユネスコスクールとは
- 特になし
- その他

--

質問 5 ユネスコの運営する Online Tool for ASPnet(OTA)を利用していますか。

- 利用した
- 利用しなかった (質問 7 へ)

質問 6 Online Tool for ASPnet(OTA)でどのように活用しましたか

- ユネスコスクールについての情報収集
- ユネスコスクールネットワークに加盟する学校の検索
- 教材や出版物の検索
- 実践事例 (フラッグシッププロジェクトなど) の検索
- 特になし
- その他

質問 7 ユネスコスクール支援大学間ネットワーク (ASPUnivNet) 加盟大学 (現状で 23 大学が加盟) からどのような支援や協力を受けましたか。

- ユネスコスクール加盟のための支援 (加盟申請書、チャレンジ期間時のサポート等)
- ユネスコスクール加盟後の活動についての個別相談
- 出前研修、ワークショップの開催、講師派遣への協力
- 学校行事や授業などへの支援
- 地域の教育機関との連携の推進
- 国内外ユネスコスクールとの連携の推進
- 特になし
- その他 (質問 8 へ)

質問 8 質問 7「その他」を選択した場合、簡潔にご記入ください。